

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 指導改善資料 子どもの目線に立つ 2021

## 第2弾

本資料は、全国学力・学習状況調査の岐阜県の結果を踏まえて、指導改善を図る際の参考になるよう、県教育委員会が作成したものです。

調査対象教科や対象学年だけでなく、学校全体で組織的・継続的な取組によって指導改善を図っていくことが大切です。

本資料が、日々の授業や研修会等の様々な場面で活用され、岐阜県の児童生徒の学力や学習状況の改善につながることを期待しています。



## 目次

教科に関する結果 ＜質問紙調査含む＞		これまでの調査において、課題となっていた内容について、改善の兆しが見られているか確かめましょう。 1：小国語 2：小算数 3：中国語 4：中数学	1～4
小学校	国語	＜「漢字」「語彙」「文や文章」等に関する内容は全ての学習の基盤となる言語能力の重要な要素＞ 「漢字」「語彙」「文や文章」に関する内容の確実な定着を図るための指導方法を改善しましょう。	5, 6
	算数	概念や性質の理解を伴った、生きて働く知識及び技能の確実な定着を図りましょう。	7, 8
中学校	国語	「言葉の特徴や使い方」について理解を深め、話や文の中で使うことができるようにする指導、知識や経験と結び付けて考えを形成する指導を充実させましょう。	9, 10
	数学	より深く理解するために、統合的・発展的に考察する力を高めましょう。	11, 12
学習や生活に関する結果＜児童生徒質問紙＞		WITH コロナ・POST コロナの指導の在り方を考えましょう。	13～22
参考	理科	平成30年度調査で明らかになった課題が改善されているか確認しましょう。	23
	英語	平成31年度・本年度調査で明らかになった課題が改善されているか確認しましょう。	24

# 教科に関する結果 ＜質問紙調査含む＞

これまでの調査において、課題となっていた内容について、改善の兆しが見られているか確かめましょう。

各学校においては、本調査を活用し指導改善の方途を明らかにして、学力向上の取組を進めてきたことと思います。その結果、児童生徒の学力・学習状況は改善しているのかを具体的に確かめることが大切です。

以下、これまで県全体の課題となっていた点についての結果を示しました。自校欄に正答率を記入するなどして自校の状況を捉え、指導改善の成果と課題を明らかにしましょう。

## 1 小学校 国語

### 課題 1 漢字を文の中で、正しく使う力

令和3年度調査結果

(▼はマイナス表示)

問題番号	漢字に書き直す言葉	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
3三(1)ア	ころがっている		78.3		76.0	▼2.3
3三(1)ウ	つみ重ね		54.4		48.6	▼5.8
3三(1)エ	げんいん		79.0		76.8	▼2.2

過去の調査結果

年度 問題番号	漢字に書き直す言葉	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 四(1)ア	調査のたいしょう		41.9		33.4	▼8.5
H31 四(1)イ	友達にかぎらず		69.4		62.1	▼7.3
H31 四(1)ウ	かんしんをもってもらいたい		35.6		34.0	▼1.6
H30 A8ア	せい造		73.4		71.0	▼2.4
H29 A7(1)	参加たいしょう		42.0		34.6	▼7.4
H28 A1=2	したいしい友人と出かける		73.8		70.9	▼2.9

### 課題 2 文の中の『主語と述語との関係』、 『修飾と被修飾との関係』を捉える力

令和3年度調査結果

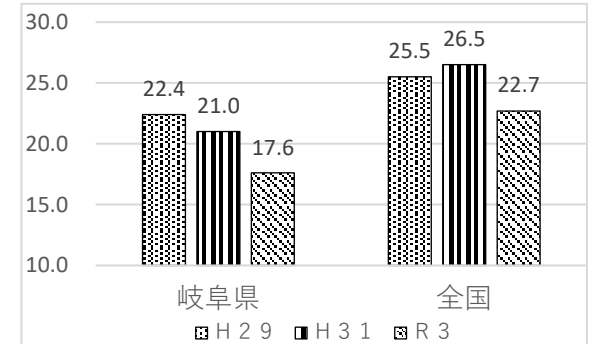
問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
3三(2)イ	文の中における主語と述語との関係を捉える		67.0		58.0	▼9.0
3三(2)オ	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える		43.6		35.3	▼8.3

過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H30 A5	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く		35.5		38.2	2.7
H27 A2=	文の中における主語を捉える		53.1		43.9	▼9.2
H27 A2=	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える		71.7		66.5	▼5.2

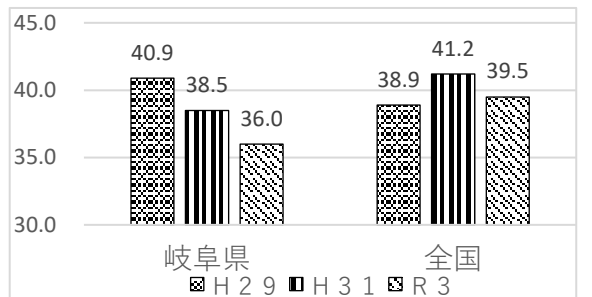
### 課題3 国語が「好き」「よく分かる」という児童の割合

質問43「国語の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した児童の割合



自校: H31 ( ) → R3 ( )

質問45「国語の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」と回答した児童の割合



自校: H31 ( ) → R3 ( )

#### ＜県全体の結果分析＞

- ・「漢字の書き」や「主語と述語との関係の捉え」など、言葉の特徴や使い方に関する事項についての5つの問題はいずれも全国平均を下回り、継続して課題となっている。
- ・「国語の勉強が好き、よく分かる」と回答した児童の割合は減少傾向にあり、その要因を捉えて、児童が意欲的に取り組むことができる授業への改善が求められる。
- ・校内で共通理解を図り、国語科だけでなく全ての教科等で課題の解決に取り組む必要がある。

## 2 小学校 算数

### 課題1 「データの特徴」や「小数を用いた倍の意味」などを、言葉や数を用いて記述する力

令和3年度調査結果

(▼はマイナス表示)

問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
3(4)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる		52.0		52.1	0.1
			無解答率		無解答率	
			10.3		12.0	1.7
4(3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる		51.5		50.5	▼1.0
			無解答率		無解答率	
			10.3		13.2	2.9

過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 2(3)	資料の特徴や傾向に関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる		52.1		51.1	▼1.0
			無解答率		無解答率	
			2.0		2.2	0.2
H31 3(2)	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる		31.1		29.5	▼1.6
			無解答率		無解答率	
			10.8		12.6	1.8
H30 B 3(1)	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる		20.7		22.5	1.8
			無解答率		無解答率	
			18.0		18.6	0.6

### 課題2 図形の面積を求めたり比べたりする力

令和3年度調査結果

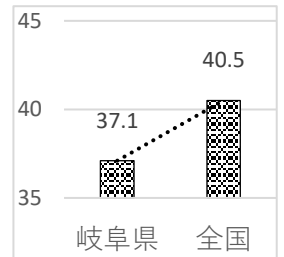
問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
2(1)	三角形の面積の求め方について理解している		55.1		51.5	▼3.6
2(2)	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる		72.5		73.7	1.2
2(3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる		46.0		45.6	▼0.4

過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 1(3)	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる		43.9		39.6	▼4.3
H28 A5	三角形の底辺と高さの関係について理解している		82.0		84.3	2.3

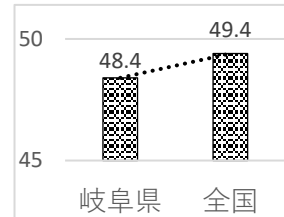
### 課題3 「算数が好き」「算数の問題をあきらめずに考える」児童の割合

質問52  
「算数の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した児童の割合



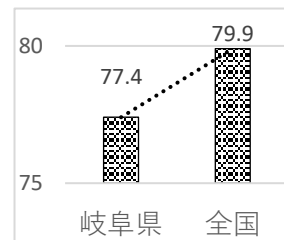
自校:

質問57  
「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」に「当てはまる」と回答した児童の割合



自校:

質問60  
「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか」に「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童の割合



自校:

#### <県全体の結果分析>

- ・記述式の4つの問題は、3(4)を除いて全国平均を下回っている。また、記述式の全ての問題の無解答率が、全国平均よりも高くなっている。言葉や数を用いて記述する力を全ての児童に身に付けていく必要がある。
- ・「算数の勉強が好き」、「あきらめずにいろいろな方法で考える」と回答した児童の割合は全国平均を下回っており、児童が主体的に粘り強く取り組み、算数の勉強が好きになる授業への改善が求められる。

【小・算数】指導改善資料 P.7,8

### 3 中学校 国語

#### 課題1 言語の知識を活用する力

令和3年度調査結果

(▼はマイナス表示)

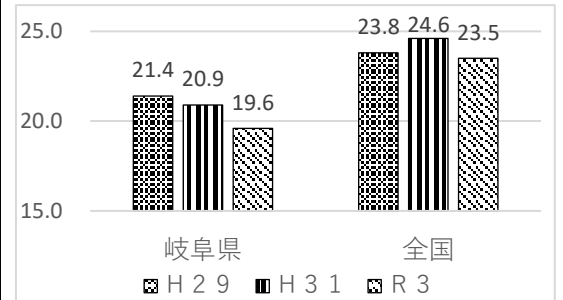
問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
4-①	文脈に即して漢字を正しく読む(伸ばして)		97.5		97.5	-
4-②	文脈に即して漢字を正しく読む(詳細)		88.8		89.2	0.4
4二	事象や行為などを表す多様な語句について理解する		74.0		78.2	4.2
4三	相手や場に応じた敬語を適切に使う		40.3		34.8	▼5.5

過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H30 A8 二I	文脈に即して漢字を正しく読む(模型を作る)		95.7		94.3	▼1.4
H27 A9 二I	文脈に即して漢字を正しく読む(詳細に述べる)		78.2		73.8	▼4.4
H30 A8 三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う(適切な敬語を選択する)		88.0		87.6	▼0.4
小学校 H30 A7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う		56.0		57.5	1.5

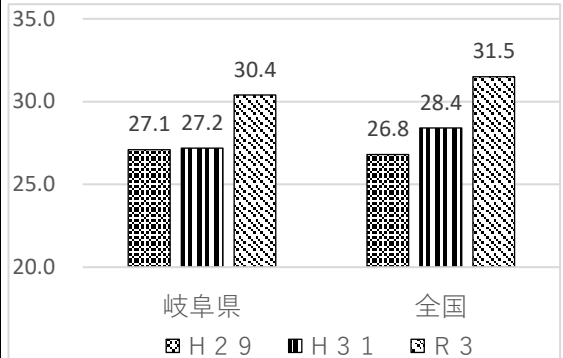
#### 課題3 国語が「好き」「よく分かる」という生徒の割合

質問43「国語の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合



自校:H31( )→R3( )

質問45「国語の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合



自校:H31( )→R3( )

#### 課題2 自分の考えを形成する力

令和3年度調査結果

問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
三四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ		20.5		20.8	0.3
			無解答率		無解答率	
			24.1		22.2	▼1.9

過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 I三	文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ		91.2		93.2	2.0
H29 B I三	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く		41.4		44.0	2.6
H28 B I三	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く		68.0		72.6	4.6

#### <県全体の結果分析>

- 平成27年度と同一問題(「詳細」の読み)の正答率が約15ポイント向上するなど、「漢字の読み」について指導改善の成果が見られる。
- 敬語を適切に使う問題は全国平均を下回り、継続して課題になっている。敬語やことわざ、慣用句など、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができる指導を継続して充実させることが必要となっている。
- 「国語の勉強が好き、よく分かる」と回答した生徒の割合は全国平均を下回っており、その要因を捉えて、生徒が学ぶ喜びを実感できる授業への改善が求められる。

【中・国語】指導改善資料 P.9,10



## 4 中学校 数学

### 課題1 数学的に説明する力

- ・結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を～
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を～
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を～

■令和3年度調査結果 (▼はマイナス表示)

問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
6(3)	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる		30.3		32.4	2.1
			無解答率		無解答率	
7(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		27.7		27.6	▼0.1
			無解答率		無解答率	
8(3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		11.1		19.0	7.9
			無解答率		無解答率	
			32.2		27.7	▼4.5

■過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨(要約)	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 6(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明		34.7		34.5	▼0.2
H31 8(2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を説明		40.8		43.0	2.2
H30B 3(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明		13.2		12.7	▼0.5
H30B 5(2)	里奈さんの計算を解釈し説明		10.4		12.9	2.5
H29B 3(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明		18.4		19.1	0.7
H29B 5(3)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を説明		17.6		22.1	4.5

### 課題2 データの特徴や傾向を読み取る知識・技能

■令和3年度調査結果

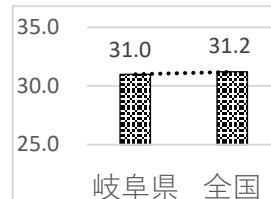
問題番号	出題の趣旨	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
5	与えられたデータから中央値を求めることができる		84.5		86.6	2.1
8(1)	ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる		83.0		84.0	1.0

■過去の調査結果

年度 問題番号	出題の趣旨(要約)	自校	全国	差 自校-全国	県	差 県-全国
H31 8(1)	表から最頻値を読み取ることができる		57.9		52.3	▼5.6
H30A 14(2)	資料から中央値を求めることができる		74.0		71.4	▼2.6
H28A 12(1)	表から最頻値を読み取ることができる		45.5		40.9	▼4.6

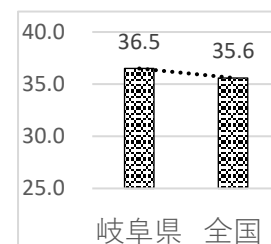
### 課題3 「数学が好き」「授業がよく分かる」「学習したことを生活の中で活用できないか考える」生徒の割合

質問52  
「数学の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合



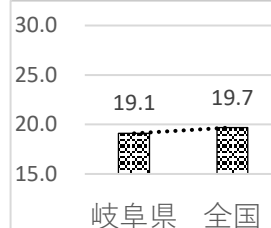
自校:

質問54  
「数学の授業の内容はよく分かりますか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合



自校:

質問56  
「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に「当てはまる」と回答した生徒の割合



自校:

#### <県全体の結果分析>

- ・数学的に説明する力を問う記述式の問題の正答率は約10～30%に留まっている。無解答率は25%を超えている。生徒の学力に応じたきめ細かな支援が必要になっている。
- ・資料等から最頻値や中央値を読み取ることが課題となっていたが、今年度の中央値を求める問題は全国平均を上回り指導改善の成果が見られる。
- ・学習と生活とのつながりを意識させ、学ぶ意義や喜びが実感できる授業への改善が求められる。

【中・数学】指導改善資料 P.11,12

# 「漢字」「語彙」「文や文章」に関する内容の確実な定着を図るための指導方法を改善しましょう。

小学校では、今年度も、漢字や文法等「言葉の特徴や使い方」に関する知識・技能の定着に大きな課題が見られました。これまでの指導方法を改善し、確実な定着を図ることが必要です。

## 「なぜ?」「どうすれば?」を解決し、課題を克服!

漢字ドリルで繰り返し練習させていますが、なぜ身に付かないのでしょうか。	指導改善①
漢字ドリルの学習以外にどのような学習をすると効果的ですか。	
言葉の特徴や使い方に関する単元の学習では確実に理解させていますが、なぜ身に付かないのでしょうか。	指導改善②
[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]を相互に関連付けるとは、どういうことでしょうか。	

### 指導改善①

繰り返しドリル学習を行うだけだったり、小単元で指導を完結したりしていませんか?

#### ポイント

「知識及び技能」が定着していない状況において、「思考力、判断力、表現力等」を高めることは難しいです。「知識及び技能」を確実に定着させるため、以下の指導例を参考にしましょう。

#### I 漢字の学習を丁寧に行う

- ・新出漢字の学習の際は、一字ずつの意味や他の読み方を確認したり、その他の語句を例示したりするなど、丁寧に行いましょう。

本文に出てくる「期限」の「限」は、「限る」とも読み、範囲を区切るという意味です。「限」を使った他の言葉の一つ探しましょう。

R1 指導改善  
資料参照



- ・辞書や教科書、本などを使って、新出漢字を使った言葉集めをしましょう。



先生 「残る」の「残」という漢字を使った言葉を集め、意味を調べましょう。

※漢字を確実に読んだり書いたりできるようにするとともに、語句の量を増すことや語句のまとまり、関係、構成などの理解を図る指導に努めましょう。

#### II 帯時間を工夫し継続して指導する

- ・学習する単元にかかわって、語句を集めるなど、語彙を豊かにする指導を日常的に継続しましょう。
- ・次のような学習を授業の冒頭に行うと、[思考力、判断力、表現力等]のC読むことの指導につながります。

【例：第2学年「お手紙」】  
「言葉を言い換える」

先生

「がまくんが言いました」という文があります。「言いました」を他の言葉に言い換えるとどんな文になりますか。

がまくんは声をかけました

児童

がまくんはそっとつぶやきました

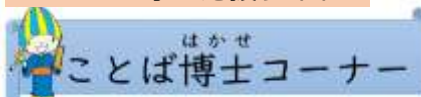
がまくんはやさしく伝えました

※様子や行動、気持ちや性格を表す語句を集める学習を授業の冒頭に継続して行うと、[知識及び技能]の定着や語彙の習得につながります。

#### III 個に合った問題に取り組ませる

- ・「ぎふっこ学び応援サイト」に、「ことば博士コーナー」を開設します。タブレットを使って、主体的に問題に取り組むことができるようにしましょう。

ぎふっこ学び応援サイト



主語と述語「だれ(何)が どうする」②  
次の文の主語として適切なもの一つ選びましょう。  
あの公園はさく年かん成した

ア あの公園は  
イ さく年  
ウ さく年  
エ かん成した

主語と述語「だれ(何)が どうする」②  
答えをかくにんしましょう。  
あの公園はさく年かん成した  
ア あの公園は「だれ(何)が」にあたる主語  
イ 公園は「何を」にあたる主語  
ウ さく年「かん成した」をくわしくする動詞  
エ かん成した「どうする」にあたる述語  
「かん成した」のほかに何かを調べましょう。

※個々の学習進度に合わせて問題を選択して取り組むことができます。授業の冒頭や帯時間、家庭学習などにおいて、活用することができます。

#### 「国語の勉強が好き」と感じられる瞬間とは?

「国語の勉強が好き」と感じられる瞬間の一つが、「なるほど・やっぱり・前よりも・次の学習でも」といった思いをもつことができたときです。そんな思いを抱くことができるよう、まずは、指導例を参考に、漢字や言葉の知識、語彙の習得や活用の場の指導を工夫していきましょう。



なるほど、この言葉を使うと文がつながる。

前よりも、漢字をたくさん書けるようになった。

やっぱり、この言葉は気持ちを表している。

次の学習でも、言葉をたくさん集めたい。

言葉の  
習得・活用  
の実感を!

## 指導改善②

〔知識及び技能〕の内容と〔思考力、判断力、表現力等〕の内容を関連付けて指導していますか。

### ポイント

思考、判断、表現することを通して、「知識及び技能」に示された内容の定着を図るようにします。

例：第5学年 読み手が納得する意見文を書こう「あなたは、どう考える」

表現や構成の工夫を考える学習を通して、単元で身に付ける〔知識及び技能〕(1)オ「語彙」・カ「文や文章」の定着を図る。

### ポイント

例文等から表現や構成の工夫を考える際に、文末表現や接続する語句などに着目させることで、〔知識及び技能〕(1)オ・カの定着を図ることができます。

先生

この文章を読んで、読み手に分かりやすく伝えるために工夫していることを考えてみましょう。

事実は「である」、考えは「だろう」と、文末表現を変えている。事実と考えの違いが分かる。

児童



「例えば」という言葉を使って具体例を出している。事実が分かりやすくなる。

文章を整える学習を通して、既習の〔知識及び技能〕(1)エ「漢字」・カ「文や文章」の定着を図る。

### ポイント

文章を整える際に、漢字や言葉の使い方等、既習の〔知識及び技能〕を活用して見直すことで、確実な定着につながります。

先生

読み手に分かりやすく伝わるように、文章を読み返して漢字や言葉の関係、使い方などを確認しましょう。

この漢字は送り仮名が違っているから直そう。この言葉はどの言葉を詳しくしているのか分かりにくいので、言葉の順番を入れ替えてみよう。

児童



「でも」が何回も続いておかしい。文のつながりが分かるように、接続する言葉でもっとよい言葉はないか。

## 自校結果の分析・指導改善

調査結果を踏まえ、これまでの指導の成果と課題を明らかにしましょう。その上で、課題の要因を考察し、今後の指導方法を具体的に考えましょう。

### 1 【分析】：自校児童の実態

成果

課題

### 2 【考察】：課題の要因として考えられること（指導・実態）

### 3 【指導改善】：今後の具体的な指導



# 概念や性質の理解を伴った、生きて働く知識 及び技能の確実な定着を図りましょう。

計算の意味や処理の根拠となる性質や用語等、概念や性質の理解に裏付けられた確かな知識及び技能の習得に課題が見られました。そこで、本資料では、その課題を克服していくための指導改善のポイント(小学校の全学年で大切にしたい指導)を紹介します。

## 視点 児童自らが、問題の解決に向けて粘り強く取り組む「主体的な学び」の実現を目指す。

① 児童が困らないように、「一問一答の発問」や「ヒント」を与え過ぎていませんか？

② 全体交流の時、一部の児童による、「形式的で一方的な説明」が繰り返されていませんか？

三角形の面積の公式は？

底辺(高さ)はどの部分かな？

では、この直角三角形の面積を求める式は？

まず…、次に…、だから…  
それで…、それに…、どうですか。

分かりました(一斉に) ?

そうですね。上手に話せました。

### 上記の指導の問題点

丁寧に指導しようと教師が必要以上にヒントを与えることで、児童の「主体的に学習に取り組む態度」や「筋道を立てて考察する力」に関する資質・能力が育ちにくくなります。

### 上記の指導の問題点

児童が一方向的に長々と話すことや一斉に反応することが目的となり、「自分の考えを説明すること」や「仲間の説明を解釈すること」に関する資質・能力が育ちにくくなります。

## 指導改善

### ポイント

1 根拠を問う(問い返し)

2 「解釈・説明」する場の設定

#### 例：第5学年「三角形と四角形の面積」

先生：面積を求める式は、 $3 \times 4 \div 2$ です。

児童A：Aさんの式には、5cmが入ってないけれど、これでいいですか。

先生：いいです。それは、底辺と高さは垂直に交わるけど、5cmの辺と垂直に交わる辺はない…

児童B：Aさんの式の $3 \times 4$ は、底辺 $\times$ 高さのことだと思います。図を傾けると…

または

先生：Aさんがどう考えたのか分かる人はいますか。

#### 例：第4学年「小数と整数のかけ算・わり算」

先生：20mを1としたとき、0.1に当たる長さは2mです。14mは2mの7つ分なので、20mを1としたときの0.7に当たります。

児童C：それでは、このようなテープ図の場合でも、Cさんのように説明できますか。

## 【児童からこんなつぶやきが出てきたら「価値付ける」大チャンスです!】

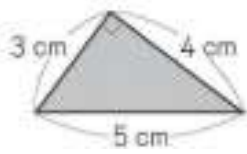
- ・「でもさ」、「だってね」、「どうしてかという」と⇒これらは「1:根拠」を明確にしようとしている証拠です。
- ・「図でいうと」、「〇〇さんが言いたいのは」と⇒これらは「2:解釈」しようとしている証拠です。

★★「すごいね」だけでなく、「どうしてすごいのか」を伝えると、確実に次の意欲につながります!★★



1 主な解答類型から誤答の要因を探りましょう。

2 (1) 直角三角形の面積を求める式と答えを書く

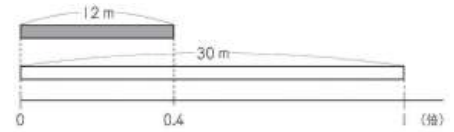


【正答】  
式  $3 \times 4 \div 2$   
答え  $6\text{cm}^2$

解答類型	自校(%)	県(%)	印
1, 2, 3		52.0	◎
4, 5, 6		8.3	
7, 8		7.2	◆
9, 10		3.9	◆
11, 12		19.6	◇
13, 99		6.2	
0		2.8	★

**解答類型の見方 ◆◇★に要注意**  
◆ 公式を何となく覚えているが、底辺や高さ等「図形を構成する要素」を理解していない。例えば、解答類型7~10のように解答した児童は、水平な辺を底辺としており、三角形の底辺や高さの関係について理解していないと考えられる。  
◇ 必要な情報を選び出すことができていない。  
★ 解答をあきらめている。

4 (3) 30m を1としたときに 12m が0.4 に当たるわけを書く



【正答の条件】  
① 0.1 に当たる長さが3mであることを表す言葉や数  
② 12mは3mの四つ分になることを表す言葉や数

解答類型	自校(%)	県(%)	印
1		50.5	◎
2		10.2	◆
3		3.3	◆
4, 5, 6		4.2	
7, 8, 9, 99		18.6	
0		13.2	★

**解答類型の見方 ◆★に要注意**  
◆ 説明に必要な要素を満たしていない。例えば、解答類型2, 3のように解答した児童は、0.1 に当たる長さは記述できているが、いくつ分に当たるかが記述できていなかったり、いくつ分になることは記述できているが、0.1 に当たる長さが記述できていなかったりしていると考えられる。  
★ 解答をあきらめている。

2 【分析】：自校児童の実態

強み

弱み

3 【考察】：弱みの要因として考えられること(指導・実態)

4 【指導改善】：今後の具体的な指導改善(毎時間取り組むこと)

# 「言葉の特徴や使い方」について理解を深め、話や文の中で使うことができるようにする指導、知識や経験と結び付けて考えを形成する指導を充実させましょう。

中学校では、「敬語」の設問に課題が見られました。「言葉の特徴や使い方」に関する内容を社会生活の中で使いこなせるよう、確実に習得させていくことが必要です。

また、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際に、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られました。そこで、本資料では、考えを形成する指導の具体を紹介します。

## 「なぜ?」「どうすれば?」を解決し、課題を克服!

言葉の特徴や使い方に関する単元の学習では確実に理解させていますが、なぜ身に付いていないのでしょうか。	指導改善①
[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]をどのように関連付けて指導したらよいのでしょうか。	
言葉の特徴や使い方に関する知識を定着させるための有効な指導方法はありますか。	指導改善②
考えを形成する指導において、どのようなことを大切にするとよいのでしょうか。	指導改善③

### 指導改善①

定義を暗記したり問題を繰り返し解いたりする学習で終わっていませんか?

#### ポイント

「思考力、判断力、表現力等」を育むためには、「知識及び技能」の定着が必要不可欠です。その際、思考、判断、表現することを通して、「知識及び技能」に示された内容の定着を図る指導が大切です。

### 「敬語」[知識及び技能](1)エ 言葉遣い

敬語の知識として基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について、それぞれの定義を暗記したり練習問題を繰り返し解いたりする学習だけでは、実際の生活で敬語を適切に使えるようになるのは難しいことです。[思考力、判断力、表現力等]の学習の際に関連付け、実践的な学習を通して、生きて働く知識や技能として身に付けることが大切です。

例：第2学年「表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く」  
[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]「B書くこと」との関連

指導事項エ「推敲」の学習との関連「相手に応じて、敬語を適切に使い分ける」

#### 観点を提示し、書いた文章を丁寧に見直す学習を取り入れましょう。

尊敬語と謙譲語の区別等に注意して文章を整えることで、「敬語」の知識が定着します。

相手に応じて、尊敬語や謙譲語が適切に使われているかに注意して読み返してみましょう。

お礼の手紙だから「教えてくれて」というのは間違っている。「相手に応じて」だから、「教えてください」が正しい。「また行ってもいいですか」は「伺ってもよろしいですか」に書き直そう。

相手に応じて適切に敬語を使い分ける。



#### ポイント

「A 話すこと・聞くこと」の学習においても、質問をしたり、経験したことを説明したりする際に、相手や場面に応じて敬語を使い分けることについての理解を深めることができます。

様々な場で、丁寧語が中心に使われますが、生徒自身が、相手や場面に応じて、敬語を適切に使い分けることができているかを自ら考えられるよう、意図的に取り上げて指導することが大切です。

### 生徒が「国語」を学ぶ喜びを実感できる授業へ

「学ぶ喜び」を単位時間の学習の中で感じるだけではなく、学習したことが、それ以降の授業や他の学習で活用できたときに「本物の喜び」となり、主体的に学ぶ意欲につながっていきます。そのため、他領域や他教科等の学習と関連させて指導することが大切です。

## 指導改善②

単位時間や単元の学習で終わることなく、学んだことを生かす場を大切に！

### ポイント

帯時間等を工夫したり、他教科等との関連を図ったりして、生徒自身が学んだことを生かすことにより、言葉の特徴や使い方に関する内容の定着を図ることができます。

#### 帯時間等を工夫し、他領域の指導と関連させて指導する

生徒が進める授業前の学習でも実践可能

・授業の冒頭で「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」と関連させて指導する等、語感を磨き、語彙を豊かにする指導を意図的・継続的に行いましょう。

例：第2学年「走れ、メロス」抽象的な概念を表す言葉について考える

本文から、「笑う」という行動を表す言葉(表現)を探しましょう。

「憫笑」「嘲笑」「ほくそ笑む」「せせら笑う」という言葉があります。

「嘲笑」は、辞書に「相手をばかにして見下す笑い方」とあります。「走れ、メロス」では「憫笑」「嘲笑」のような漢語が、多く使われていると思います。

抽象的な概念を表す語句の量を増やす

#### 他教科等と関連させて指導する

・総合的な学習の時間や特別活動などにおいて、国語で学んだ知識や技能を活用させましょう。

※R1指導改善資料参照

学年部や他の教科部との連携が必要です。授業外で行う手紙やレポートなどを作成する活動、スピーチなどの活動において、漢字や言葉の使い方(敬語・文法など)について見直す場を設定するなど、意図的に指導しましょう。

## 指導改善③

考えを書く際の指導のポイントを意識していますか？

### ポイント

文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際には、自分は文章のどこからそう考えたのかを明確に示すよう指導しましょう。また、根拠を明確にする意義を考えることも大切です。

#### 根拠を明確にして考えをまとめる学習をする

・「C読むこと」における「考えの形成」は、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、既存の知識や経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりしていくことです。

例：第1学年『『不便』』の価値を見いだす

筆者の主張に対する自分の考えをまとめましょう。その際、どこからそう考えたのかが分かるように例を挙げて書きましょう。

Aさんは、「私はいつも歩いて買い物に行くのは『不便』だと思っていたけれど、そうではないかもしれないと思った」と書いていますが、どの叙述が根拠になると思いますか。

「徒歩の方が発見や出会いの機会が増える」という叙述が根拠になると思います。

## 自校結果の分析・指導改善

調査結果を踏まえ、これまでの指導の成果と課題を明らかにしましょう。その上で、課題の要因を考察し、今後の指導方法を具体的に考えましょう。

### 1【分析】：自校生徒の実態

成果

課題

### 2【考察】：課題の要因として考えられること（指導・実態）

### 3【指導改善】：今後の具体的な指導



# より深く理解するために、統合的・発展的に考察する力を高めましょう。

問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察して、条件を変えたり、新たな性質を発見したりすることについて課題が見られました。そこで、本資料では、その課題を克服していくための指導改善のポイント(中学校の全学年で大切にしたい指導)を紹介します。

**視点** 生徒自らが、問題の解決に向けて粘り強く取り組む「主体的な学び」の実現を目指す。

①多様な考えを扱う授業で、**個々の考えを発表するだけで全体交流を終えていませんか？**

②授業のはじめに提示した**1つの問題の解決だけでまとめて、その後は練習問題に取り組むという展開になっていませんか？**

### 上記の指導の問題点

「どうですか?」「いいです」という、形式的な話し合いに留まりやすく、「仲間の考えや自分の考えを関連付けて考察しようとする姿勢」が育ちににくくなります。

### 上記の指導の問題点

「問題を解決したら終わり」、「練習問題が正解できればよい」という意識になりやすく、「学んだことを活用しようとする態度」や「よりよく問題解決しようとする態度」が育ちににくくなります。

## 指導改善

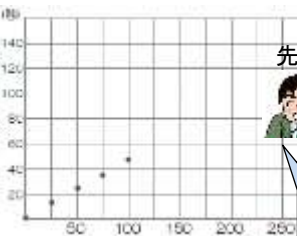
ポイント

- 1 共通点や類似点、相違点への着目を促す
- 2 条件を変えて問う(問い返し)

### 例: 第2学年「1次関数」

2分をはかるために必要な砂の量は?

砂の量x(分)	0	25	50	75	100
砂の量y(分)	0	11.9	24.2	38.0	48.8



先生 「表・式・グラフ」のうち、自分が使っていない考えで説明してみましょう。

1

「表・式・グラフ」それぞれの考えにどんな「よさ」がありますか。

生徒

僕はグラフで…直線だから…  
私は表で…xの値が2倍、3倍…  
私は式で… $y=0.5x$ として…

### 例: 第1学年「データの活用」

右の記録の「中央値」を求めなさい。

記録	37	41	43	45	47	50	50	51
----	----	----	----	----	----	----	----	----



先生

2

それでは、データが10個の場合はどうなりますか?

記録	43	46	46	52	52	55	56	56	57
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

2

右の表で中央値はどの階級に含まれますか。

記録(分)	人数(人)
以上 未満	
35~40	1
40~45	5
45~50	0
50~55	3
55~60	4

生徒

9個のデータを小さい方から並べたとき、真ん中にあるのが中央値だから「47」です。

## 【生徒からこんなつぶやきが出てきたら「価値付ける」大チャンスです!】

- ・「要するに」、「ちょっと違って」、「まとめると」⇒「1:統合的な考え方」を働かせようとしている証拠です。
- ・「だったら」、「ということは」⇒「2:発展的な考え方」を働かせようとしている証拠です。

★★「すごいね」だけでなく、「どうしてすごいのか」を伝えると、確実に次の意欲につながります!★★

1 主な解答類型から誤答の要因を探りましょう。

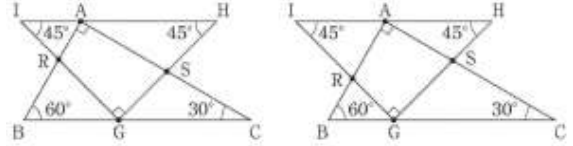
6(3) 四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるかを説明する。

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

【正答の条件】  
 「○○は△△である」という形で、次の(a)、(b)を記述しているもの。  
 (a)○○が、「四角で囲んだ4つの数の和」である。  
 (b)△△が、「左上の数と右下の数の和の2倍」である。

解答類型	自校(%)	県(%)	印
1		32.1	◎
2		0.3	◇
3		1.9	◇
4		6.6	◆
5,99		30.4	
0		28.7	★

9(3)  $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$  についていつでもいえることを書く。



解答類型	自校(%)	県(%)	印
1		16.8	◎
2		2.6	◎
3		10.9	◎
4		9.8	◇
5,99		32.8	◆
0		27.1	★

解答類型の見方 ◇◆★に要注意

- ◇示された形で説明しようとしているが不十分である。例えば、解答類型2,3のように解答した生徒は、指定された形の2つの条件である(a)、(b)の内、(a)について記述していない。
- ◆解決の過程や結果を振り返って、性質を見だし、統一的・発展的に考察することができなかつた。
- ★解答をあきらめている。

解答類型の見方 ◆★に要注意

- ◎正答が複数存在する設問である。解答類型1~3のように解答した生徒は、 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ について見いだした性質を理解した上で、さらにいえることを見だし、数学的に表現することができている。
- ◇既に見いだした性質を再度記述してしまっている。
- ◆ $\angle ARG$ と $\angle ASG$ について、いつでもいえることを見いだすことができなかった。
- ★解答をあきらめている。

2 【分析】：自校生徒の実態

強み

弱み

3 【考察】：弱みの要因として考えられること(指導・実態)

4 【指導改善】：今後の具体的な指導改善(毎時間取り組むこと)

# 学習や生活に関する結果

## <児童生徒質問紙調査>

# WITH コロナ・POST コロナの指導の在り方を考えましょう!



本調査結果から、感染症対策により例年とは異なる生活を過ごしてきた児童生徒の意識や状況が分かります。感染症等が及ぼす影響を踏まえ、一人一人に寄り添い、コロナ禍だからこそ価値ある教育活動を創り出していくことが大切です。

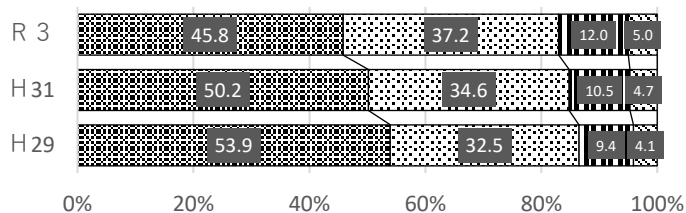
### 1 自己有用感、挑戦心等

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

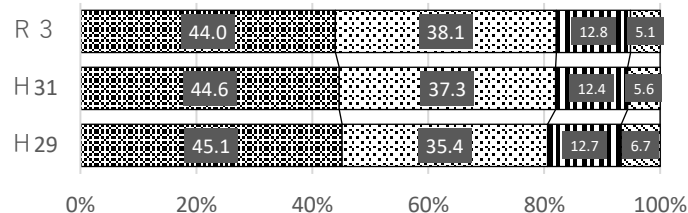
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	13	学校に行くのは楽しいと思いますか		47.9		45.8	▼2.1
中	13			43.3		44.0	0.7

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

<小・岐阜県>

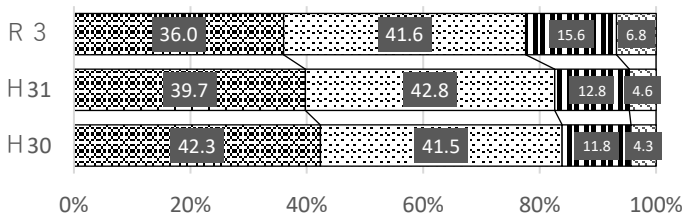


<中・岐阜県>

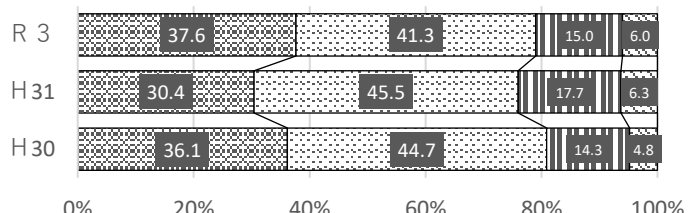


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	6	自分には、よいところがあると思いますか		36.2		36.0	▼0.2
中	6			34.5		37.6	3.1

<小・岐阜県>

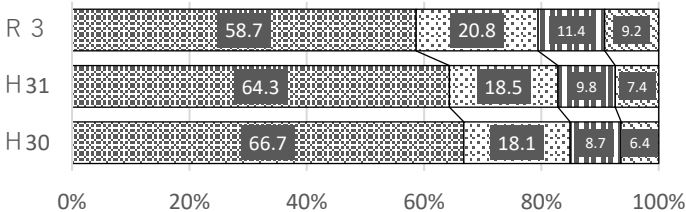


<中・岐阜県>

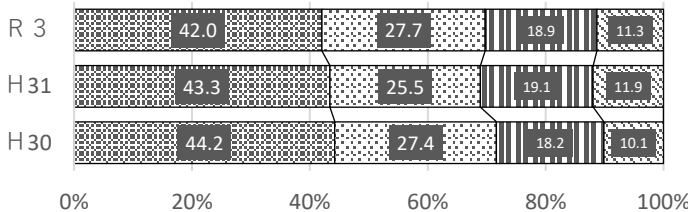


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	7	将来の夢や目標を持っていますか		60.2		58.7	▼1.5
中	7			40.5		42.0	1.5

<小・岐阜県>

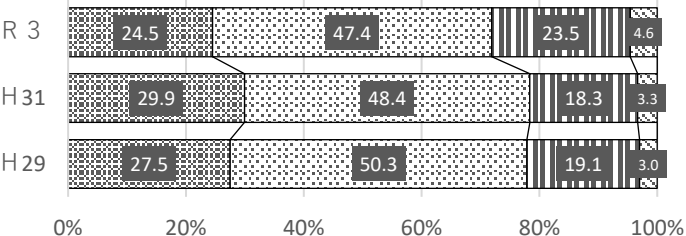


<中・岐阜県>

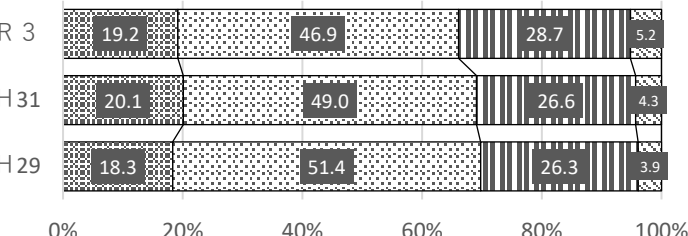


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか		24.4		24.5	0.1
中	9			20.0		19.2	▼0.8

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>

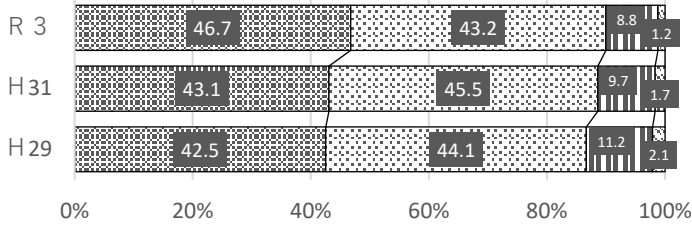




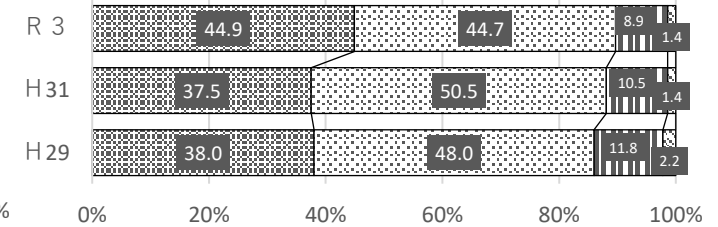
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	10	人が困っているときは、進んで助けていますか		43.6		46.7	3.1
中	10			41.6		44.9	3.3

■ 当てはまる   ■ どちらかといえば、当てはまる   ■ どちらかといえば、当てはまらない   ■ 当てはまらない

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>



<県全体の結果分析>

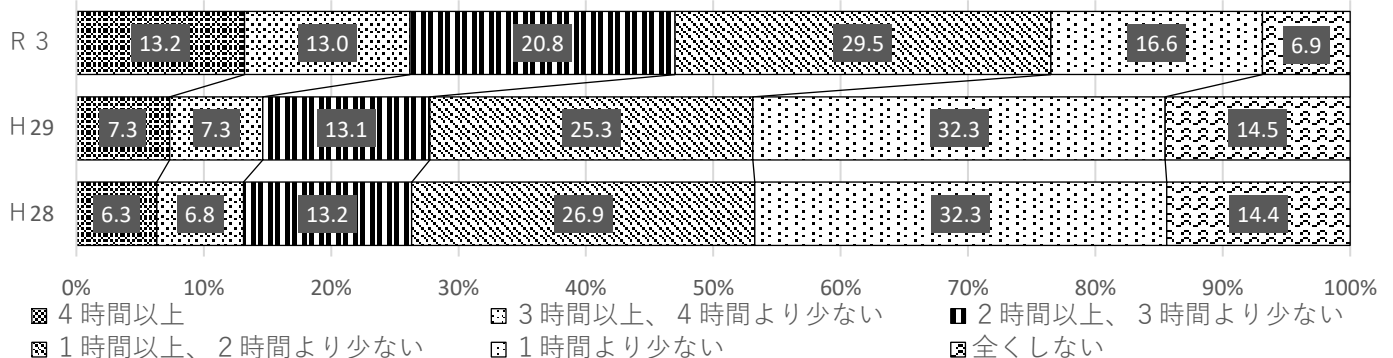
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で減少傾向にあり、中学校では45%前後で推移している。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともにやや減少傾向にある。
- ・「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに平成31年度調査より増加している。

2 基本的生活習慣、学習習慣等

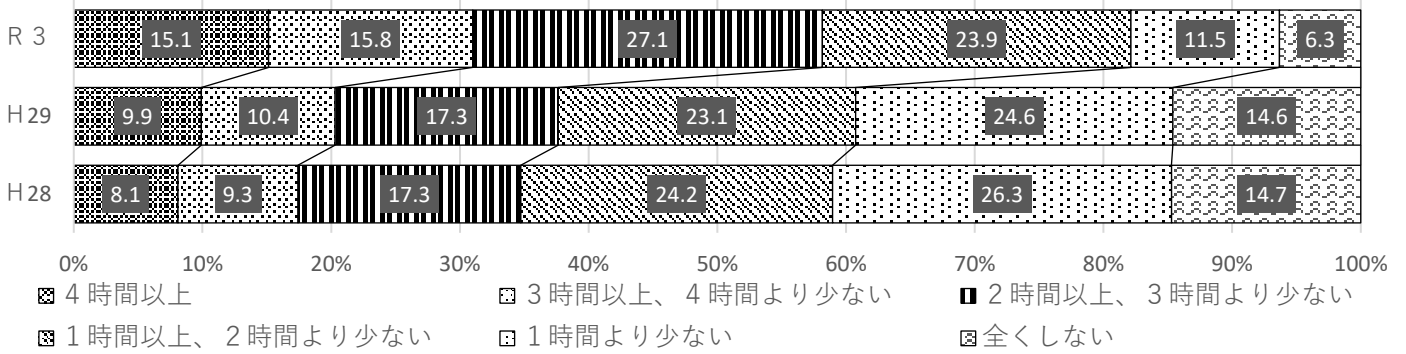
	番号	質問事項						
小	4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか						
中	4							
		きちんと守っている	だいたい守っている	あまり守っていない	守っていない	携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っているが、約束はない	携帯電話・スマートフォンやコンピュータは持っていない	
自校								
小	全国	38.0	32.1	4.7	0.9	11.8	12.4	
	岐阜県	40.4	31.4	4.8	0.8	10.8	11.7	
中	全国	30.9	37.0	6.6	1.5	18.9	4.8	
	岐阜県	30.6	37.7	7.7	1.6	16.8	5.4	

	番号	質問事項						
小	5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか						
中	5							
		4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	1時間より少ない	全くしない	
自校								

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>

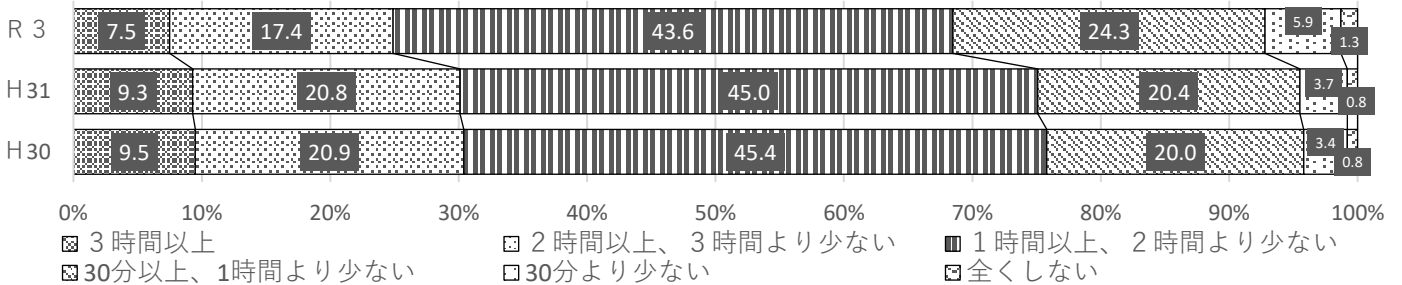


「よくしている」と回答した児童生徒の割合

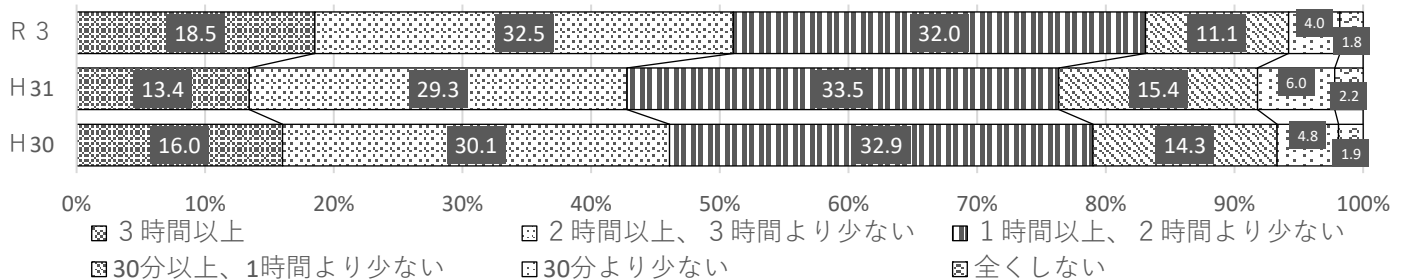
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	17	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか		31.2		33.1	1.9
中	17	(学校の授業の予習や復習を含む)		19.4		22.9	3.5

	番号	質問事項						
小	18	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)						
中	18							
			3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全くしない
		自校						
		小・全国	11.6	15.3	35.6	24.5	9.5	3.5
		中・全国	12.3	29.5	34.1	14.1	6.4	3.5

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>



<県全体の結果分析>

- ・テレビゲーム(コンピュータゲーム等を含む)を1日当たり2時間以上行っている児童生徒の割合は、小学校で47%、中学校で58%で、平成29年度調査より、小学校で19.3ポイント、中学校で20.4ポイント増加している。4時間以上している児童生徒の割合は、小学校で13.2%、中学校で15.1%となっており、依存傾向が心配されるため、適切な支援が必要である。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に「よくしている」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国平均を上回っている。
- ・家庭での学習時間は、平成31年度調査と比較して、小学校は減少、中学校は増加している。

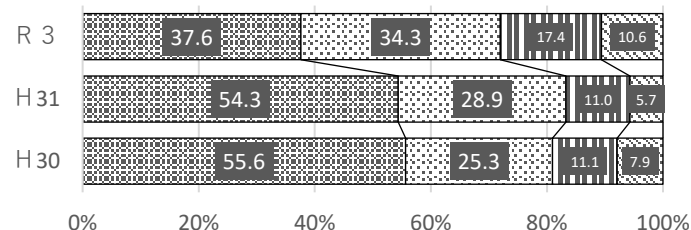
### 3 地域や社会に関わる活動の実施状況等

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

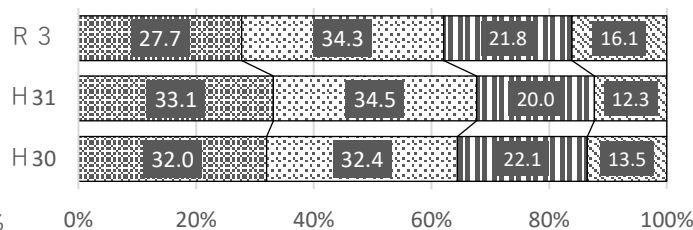
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	24	今住んでいる地域の行事に参加していますか		26.7		37.6	10.9
中	24			16.3		27.7	11.4

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

<小・岐阜県>

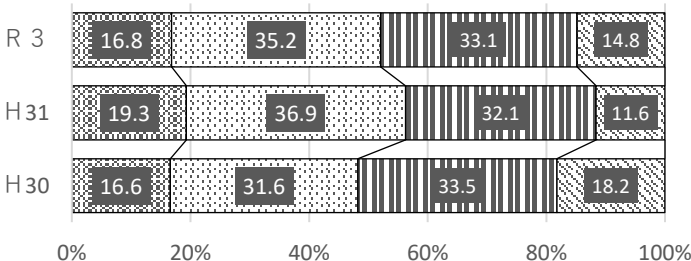


<中・岐阜県>

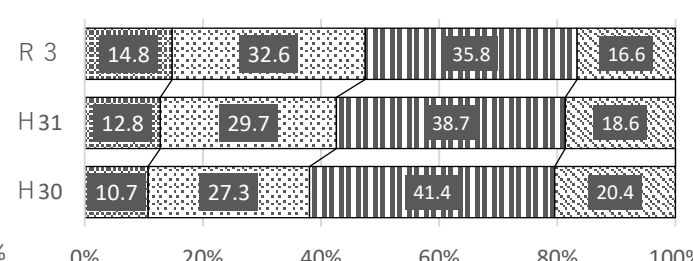


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか		17.8		16.8	▼1.0
中	25			12.6		14.8	2.2

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>



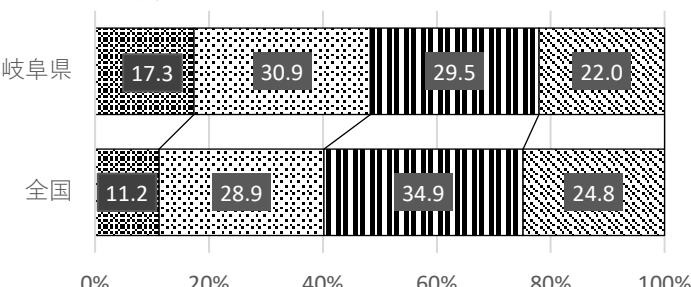
#### <県全体の結果分析>

・地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、感染症の感染拡大防止のため地域行事や地域の方とかかわる活動が中止になった等の影響から、平成31年度調査より大きく減少している。オンラインを活用する等、地域と関わる活動の工夫が必要となっている。

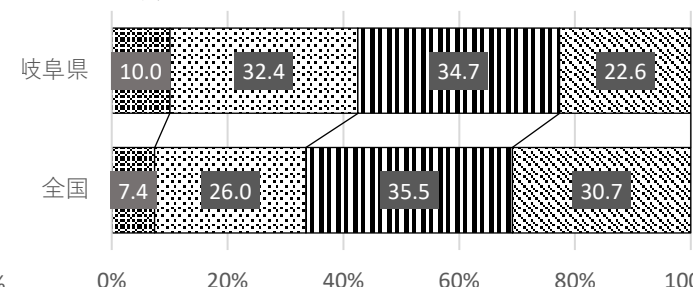
### 4 ICTを活用した学習状況

	番号	質問事項				
小	26	5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか				
中	26					
			ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	月1回未満
自校						
小・全国			11.2	28.9	34.9	24.8
中・全国			7.4	26.0	35.5	30.7

<小・岐阜県/全国>



<中・岐阜県/全国>

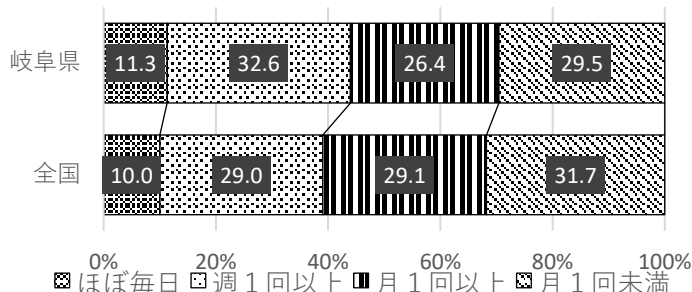


■ ほぼ毎日 □ 週1回以上 ▨ 月1回以上 ▩ 月1回未満

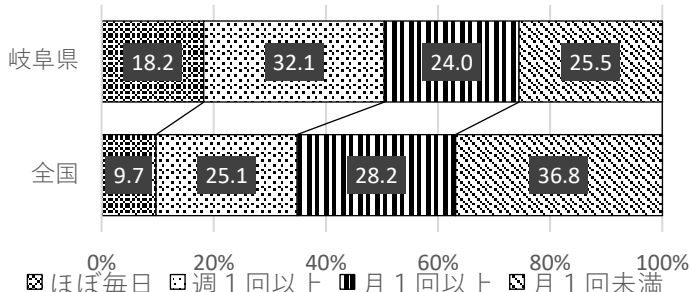


	番号	質問事項				
小	27	あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか				
中	27					
			ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	月1回未満
自校						
小・全国			10.0	29.0	29.1	31.7
中・全国			9.7	25.1	28.2	36.8

<小・岐阜県／全国>

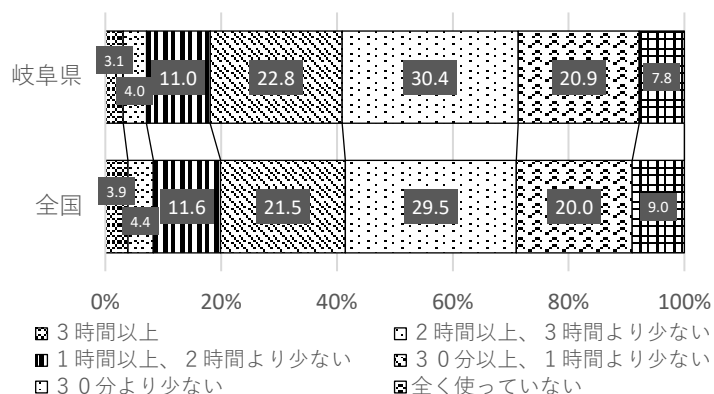


<中・岐阜県／全国>

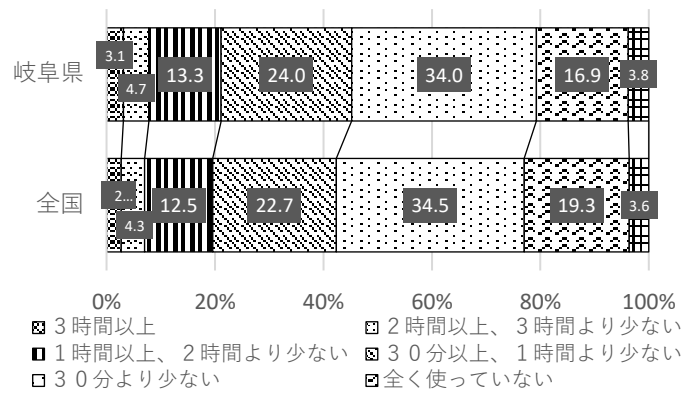


	番号	質問事項							
小	29	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか							
中	29								
			3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	全く使っていない	スマートフォンやコンピュータなどのICT機器をもっていない
自校									
小・全国			3.9	4.4	11.6	21.5	29.5	20.0	9.0
中・全国			2.7	4.3	12.5	22.7	34.5	19.3	3.6

<小・岐阜県／全国>



<中・岐阜県／全国>



### <県全体の結果分析>

- ・ICT機器の使用頻度について、「ほぼ毎日」が小学校で17.3%、中学校で10.0%、「週1回以上」が小学校で30.9%、中学校で32.4%でいずれも全国平均を上回っている。
- ・ICT機器を「他の友達〔生徒〕と意見を交換したり、調べたりするために使用している」頻度については、「ほぼ毎日」が中学校で18.2%で全国平均を8.5ポイント上回っている。
- ・スマートフォンやコンピュータなどを勉強のために使っている時間は、全国平均並みで、今後端末の持ち帰り等により、ICT機器を活用した家庭学習の在り方について検討していく必要がある。その際、端末を扱う際のルールやID・パスワード管理についての指導を行うとともに、家庭と共通理解を図ることが重要である。

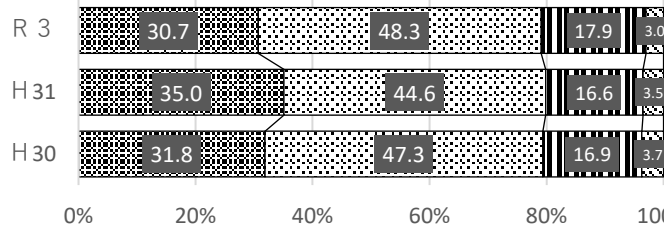
## 5 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

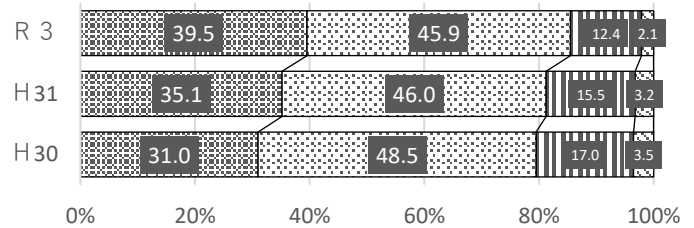
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	33	5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか		30.3		30.7	0.4
中	33			33.5		39.5	6.0

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

<小・岐阜県>

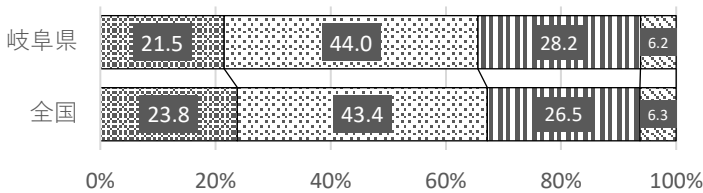


<中・岐阜県>

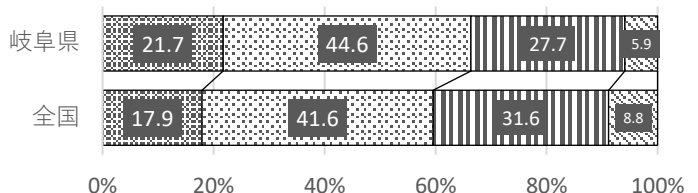


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	34	5年生まで〔1,2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか		23.8		21.5	▼2.3
中	34			17.9		21.7	3.8

<小・岐阜県/全国>

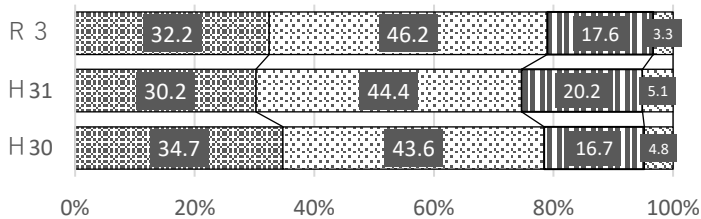


<中・岐阜県/全国>

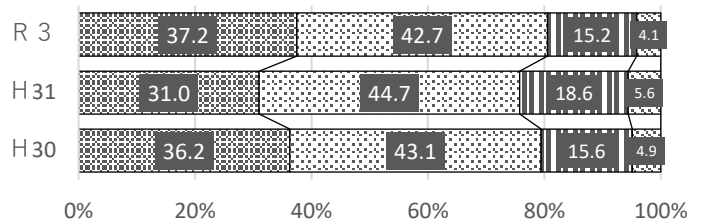


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	37	学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか		33.0		32.2	▼0.8
中	37			33.9		37.2	3.3

<小・岐阜県>

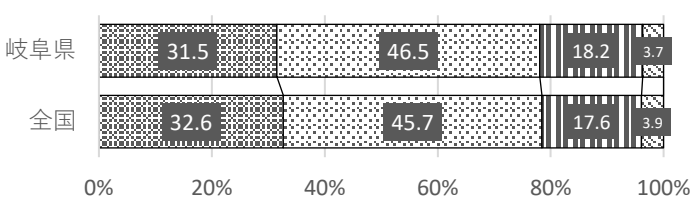


<中・岐阜県>

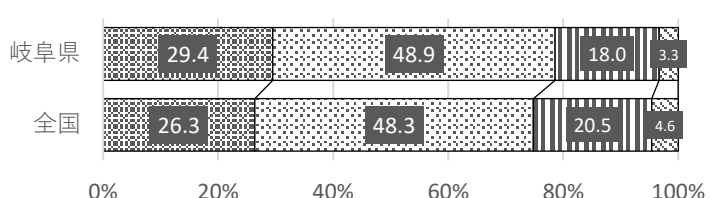


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	38	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか		32.6		31.5	▼1.1
中	38			26.3		29.4	3.1

<小・岐阜県/全国>



<中・岐阜県/全国>

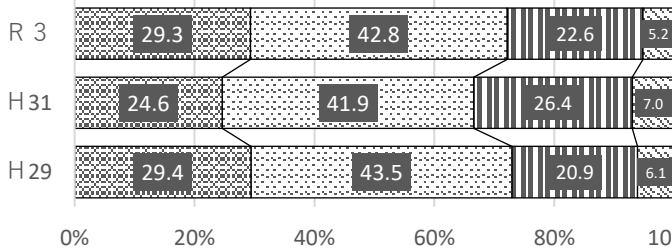


「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

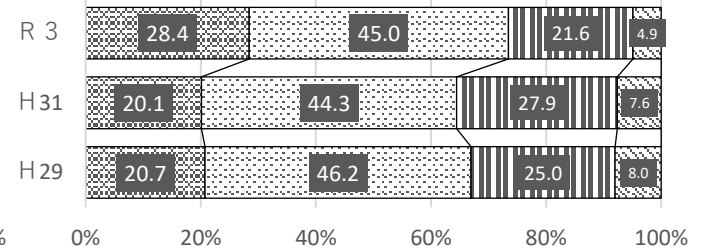
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか		31.7		29.3	▼2.4
中	39			28.2		28.4	0.2

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

<小・岐阜県>

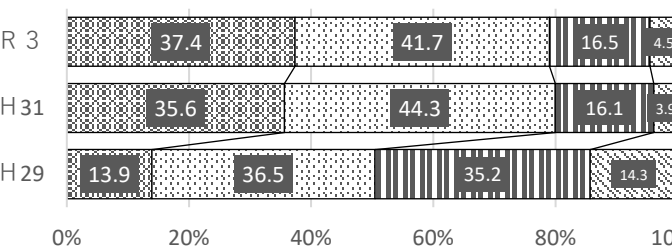


<中・岐阜県>

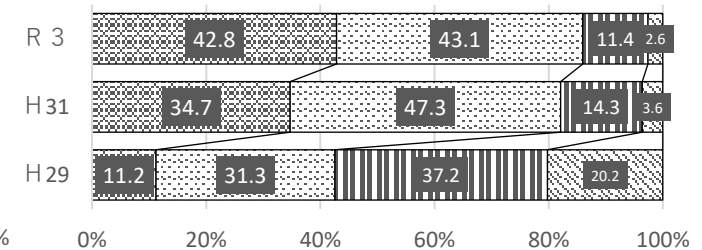


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会〔学級活動〕で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか		32.3		37.4	5.1
中	40			28.3		42.8	14.5

<小・岐阜県>

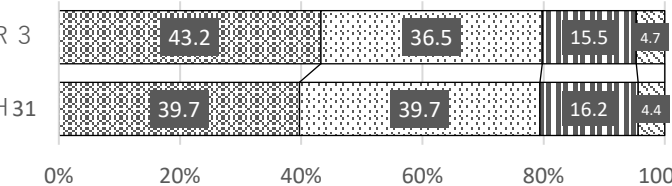


<中・岐阜県>

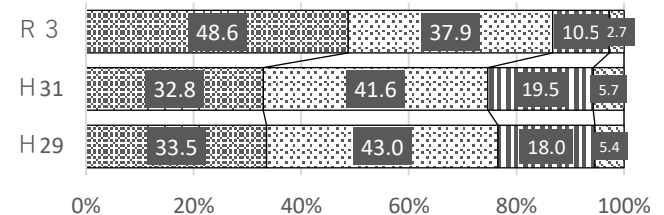


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか		45.6		43.2	▼2.4
中	42			48.8		48.6	▼0.2

<小・岐阜県>



<中・岐阜県>



<県全体の結果分析>

- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成31年度調査と比較して、小学校は4.3ポイント減少し、中学校は4.4ポイント増加している。児童生徒の主体性を引き出す、課題設定の在り方や解決に向けての活動を工夫していくことが重要である。
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、平成31年度調査と比較して、小・中学校ともに増加している。
- ・総合的な学習の時間や学級活動の目標を踏まえた活動に取り組んでいる児童生徒の割合は、平成31年度調査と比較して増加している。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という質問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小・中学校ともに平成31年度調査より増加しているが、全国平均をやや下回っている。

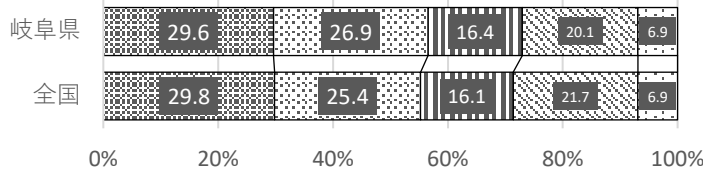
# 6 新型コロナウイルス感染症の影響

「当てはまる」と回答した児童生徒の割合

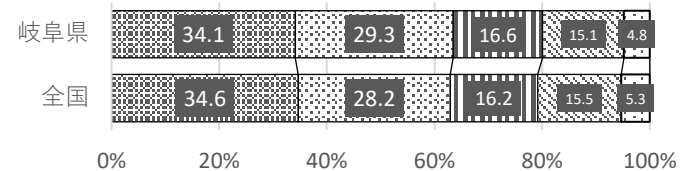
	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか		29.8		29.6	▼0.2
中	64			34.6		34.1	▼0.5

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない
 思い出せない

<小・岐阜県/全国>

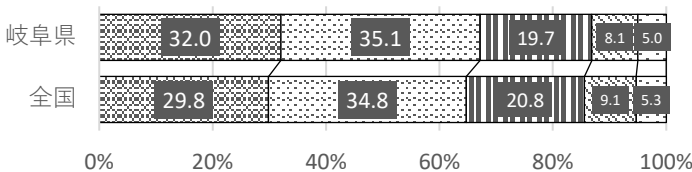


<中・岐阜県/全国>

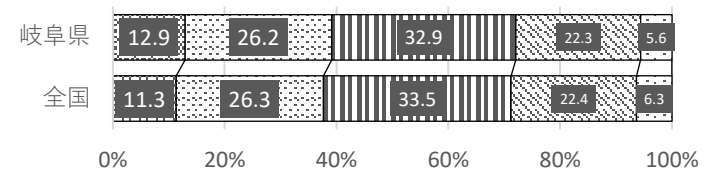


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか		29.8		32.0	2.2
中	65			11.3		12.9	1.6

<小・岐阜県/全国>

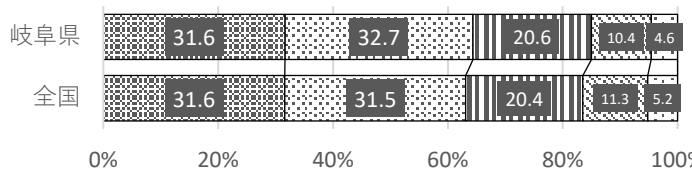


<中・岐阜県/全国>

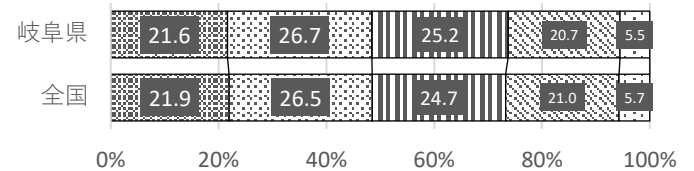


	番号	質問事項	自校	全国	差 自校-全国	岐阜県	差 県-全国
小	66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が臨時休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか		31.6		31.6	-
中	66			21.9		21.6	▼0.3

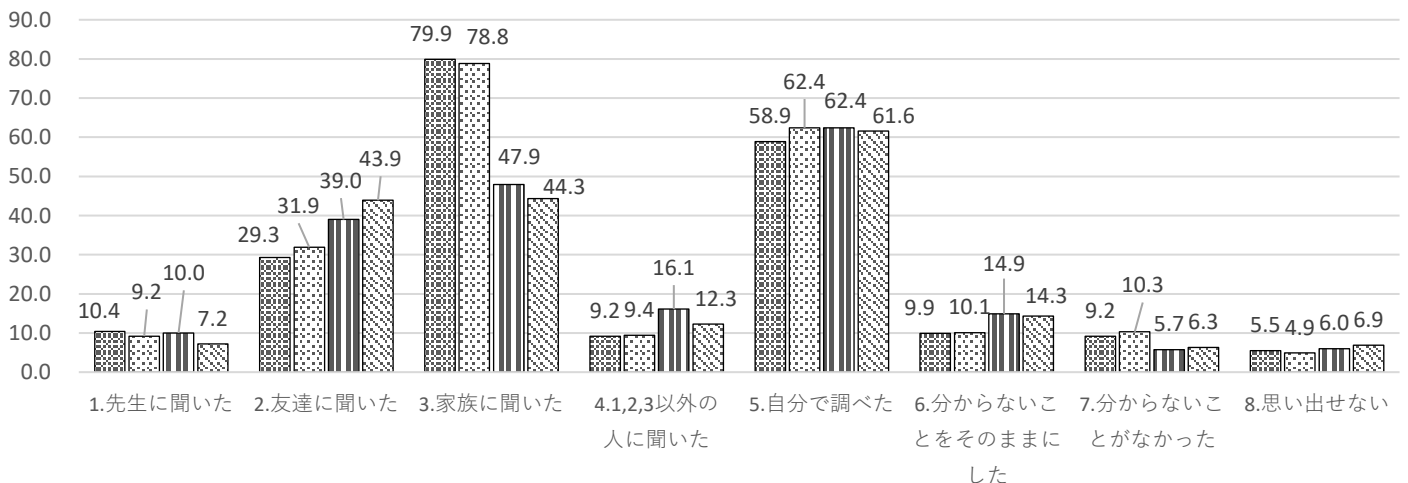
<小・岐阜県>



<中・岐阜県>



	番号	質問事項
小	67	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか(複数選択)
中	67	



小・岐阜県
 小・全国
 中・岐阜県
 中・全国



<県全体の結果分析～「臨時休校期間中の状況」について～>

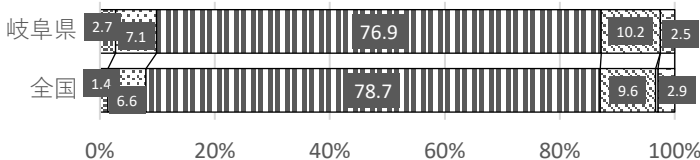
- ・「勉強について不安を感じた」児童生徒の割合は、小学校56.5%、中学校63.4%であった。今後、休校や学級閉鎖を想定しオンライン授業ができる体制を整えておく等、児童生徒の不安を解消する学習支援ができるようにしておくことが重要である。
- ・「計画的に学習を続けることができた」児童生徒の割合は、小学校67.1%、中学校39.1%であった。
- ・「規則正しい生活を送っていた」児童生徒の割合は、小学校64.3%、中学校48.3%であった。
- ・「分からないことがあったとき」、小学校では「家族に聞く」79.9%が一番多く、次に「自分で調べる」が58.9%が多かった。中学校では「自分で調べる」が62.4%が一番多く、次に「家族に聞く」が47.9%が多かった。「分からないことをそのままにした」児童生徒は小学校9.9%、中学校14.9%であることから、家庭環境等も踏まえ、一人一人の状況に応じた支援が必要となっている。

(「学校質問紙調査」より)

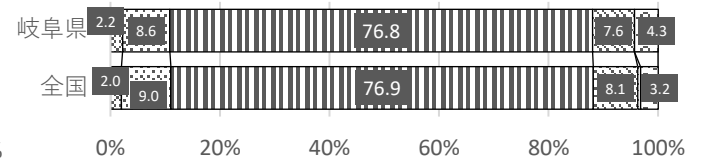
	番号	質問事項
小	Ⅶ	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、どのような変化があったと思いますか【児童生徒同士の関係】
中	Ⅶ	

よくなった
  どちらかといえば、よくなった
  変わらない
  どちらかといえば、悪くなった
  悪くなった
  分からない

<小・岐阜県/全国>

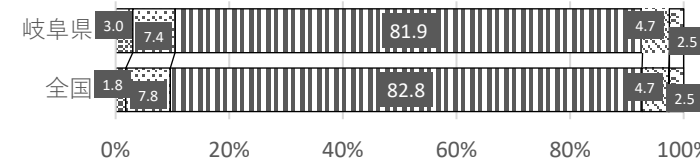


<中・岐阜県/全国>

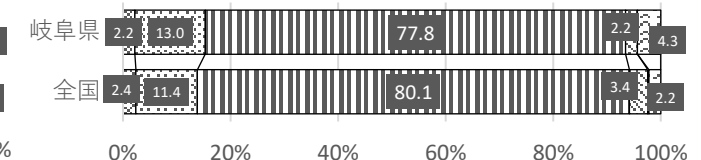


	番号	質問事項
小	Ⅷ	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、どのような変化があったと思いますか【児童生徒と教員の関係】
中	Ⅷ	

<小・岐阜県/全国>

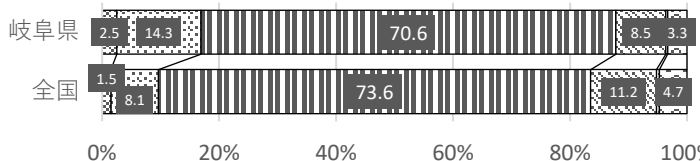


<中・岐阜県/全国>

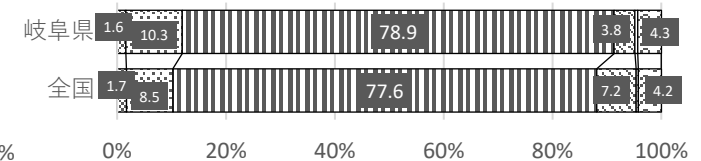


	番号	質問事項
小	Ⅸ	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、どのような変化があったと思いますか【教員と保護者の関係】
中	Ⅸ	

<小・岐阜県/全国>

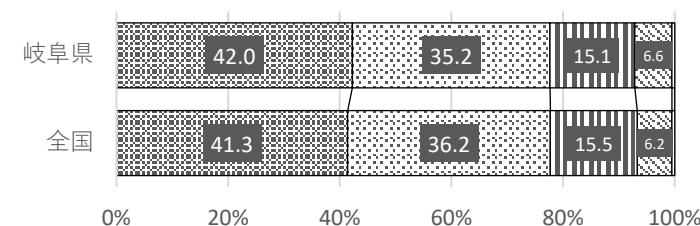


<中・岐阜県/全国>

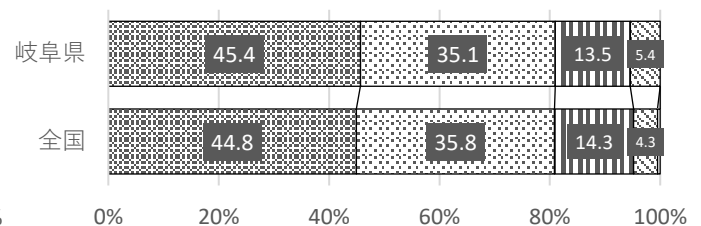


	番号	質問事項
小	X	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、どのような変化があったと思いますか【教員の業務量】
中	X	

<小・岐阜県/全国>



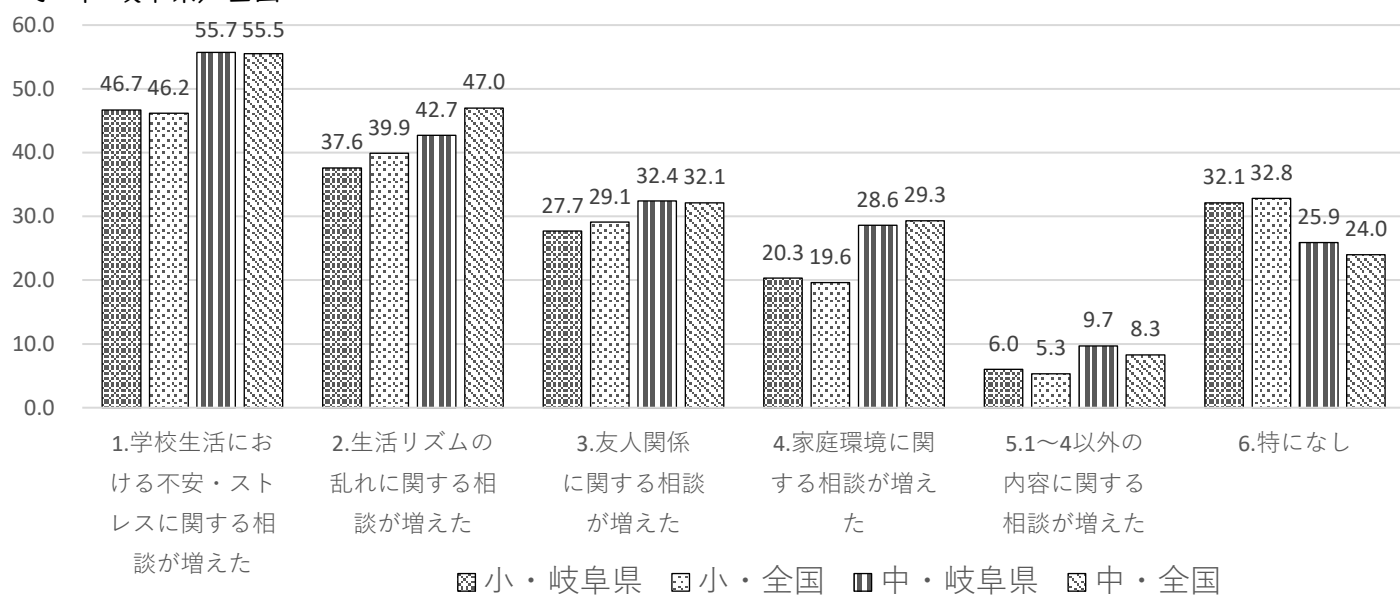
<中・岐阜県/全国>



増えた
  どちらかといえば、増えた
  増えた
  どちらかといえば、増えた
  増えた
  どちらかといえば、増えた
  変わらない
  変わらない
  変わらない
  どちらかといえば、減った
  減った
  減った

	番号	質問事項
小	XI	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、児童生徒からの相談内容に変化があったのはどれですか(複数選択可)
中	XI	

<小・中 岐阜県/全国>



### <県全体の結果(感染症の影響に係る学校質問紙調査)分析>

- ・「感染症の影響前と比較してどのような変化があったと思いますか」という質問に対して  
「よくなった・変わらない」と回答した割合:児童生徒同士…… 小 86.7%、中 87.6%  
:児童生徒と教員… 小 92.3%、中 93.0%  
:教員と保護者…… 小 87.4%、中 90.8%
- ・「児童生徒同士の関係がよくなった」と回答した小学校9.8%、中学校10.8%あり、コロナ禍だからこそ児童生徒相互のかかわりを大切した取組が進められたことが伺える。
- ・「教員と保護者の関係がよくなった」と回答した小学校16.8%、中学校11.9%あり、感染予防対策等保護者の協力を得て教育活動を進める中で良好な関係が築かれたことが伺える。
- ・感染症の影響前と比較して、「学校生活における不安・ストレスに関する相談が増えた」と回答した小学校46.7%、中学校55.7%、「生活リズムの乱れに関する相談が増えた」と回答した小学校37.6%、中学校42.7%となっている。「友人関係に関する相談が増えた」、「家庭環境に関する相談が増えた」と回答した小・中学校も20%以上あり、各学校における相談体制の充実が必要となっている。

**【自校の取組:臨時休業期間中の経験(児童生徒に与えた影響等)を踏まえて、今後、どのような教育活動や児童生徒支援に生かしていくのか】**

# 理科

平成 30 年度調査で明らかになった課題が改善されているか確認しましょう。

## 調査問題の正答率より

### 課題の見られた問題の趣旨と結果

小3(3) 実験結果を基により妥当な考えに改善する 正答率(岐阜県): **60.4%**

中3(3) 考察した内容を検討して改善する 正答率(岐阜県): **54.7%**

■「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査 報告書 小学校理科」P45~P50

■「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校理科」P37~P45

より妥当な考えに改善できるようにするためには、「多面的に考える」ことが大切です。

以下の例を参考に、日々の授業において「多面的に考える」指導の充実を図ることができます。

- 解決したい問題(課題)について互いの予想や仮説を尊重しながら追究(探究)する。
- 観察、実験などの結果を基に、予想や仮説、観察、実験などの方法を振り返り、再検討する。
- 複数の観察、実験などから得た結果を基に考察する。



## 指導例

小学校第6学年「燃焼の仕組み」

中学校第1学年「身近な物理現象」

### 結果の見通し

実験方法	1	2	3
ろうそくの火	燃え続ける 消える	燃え続ける 消える	燃え続ける 消える

\*児童が考えた結果の見通し(A,B,Cは児童のカード番号)を共有している様子

予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しを共有する。

### 実験後

実験方法1,3は、ろうそくの火が燃え続けました。実験方法2は空気の入るすき間があるのに燃え続けたいのはなぜだろう。

空気が入れ替わると燃え続けると考えていたCさんの予想どおりの結果になりました。

実験の様子を撮影した動画で線香の煙の動きを確認し、空気の入れ替わりについて考えてみましょう。

先生

Aさん

Bさん

\*他者の予想と結果の見通しを共有することで、実験後に他者の多様な考えを振り返りより妥当な考えに改善できるようにする指導例

### 課題

ばねの伸びは、ばねに加わる力の大きさによってどのように変わるか

### 結果

力の大きさ [N]	0	0.2	0.4	0.6	0.8	1.0
aのばねの伸び [cm]	0	2.0	4.0	6.0	8.0	10.0
bのばねの伸び [cm]	0	2.5	5.0	7.5	10.0	12.5

### 考察

同じ大きさの力を加えても、ばねの種類によってばねの伸びは異なると考えられます。

Dさんの考察は、「結果からいえること」としては適切です。課題に正対した考察となっているか、という視点で見直してみましょう。

Dさんは表を縦に見たのですね。「ばねの伸びは、加わる力の大きさによってどのように変わるか」の結論を書く必要があるので、表を横に見て、力を0、0.2、0.4...と変化させたときのばねの伸びを確認するといひよ。



先生



Dさん



Eさん

課題に正対した考察となるように、自分の考察を振り返ったり、他者の考察を協働で検討して改善したりする。

## 児童生徒質問紙(理科)の回答状況より

	小6			中3		
	県	全国差	全国	県	全国差	全国
好き	85.2	+1.7	83.5	67.2	+4.3	62.9
大切	87.0	+1.6	85.4	72.0	+1.4	70.6
将来役に立つ	74.5	+1.6	72.9	57.3	+1.6	55.7

\*数値は国研のHPで公表されている岐阜県のデータから算出(肯定的な回答「そう思う」「どちらかといえどそう思う」を合計した割合)

理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めるためには、「日常生活や社会との関連を図る」ことが大切です。

以下の例を参考に、日々の授業において「理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高める」指導の充実を図ることができます。

- 「日常生活や他教科等との関連を図った学習活動」「自然災害との関連を図った学習活動」「目的を明確にした観察、実験やものづくりの活動(小学校)」「原理や法則の理解を深めるためのものづくりの活動(中学校)」等

平成31年度・本年度調査で明らかになった課題が改善されているか確認しましょう。

## 平成31年度調査問題の正答率・無解答率より

### 課題の見られた問題の趣旨と結果

※数値は**県平均**(全国平均)

・「平成31年度 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校英語」 P.31 P.45 P.62  
 ・「平成31年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 中学校英語」 P.23 P.34 P.49

4	聞いた内容について適切に応じる	正答率: 7.1% (7.6%)	無解答率: 42.2% (42.3%)
8	読んだ内容について適切に応じる	正答率: 11.8% (10.9%)	無解答率: 24.9% (27.9%)
10	テーマについて、まとまりのある文章を書く	正答率: 2.4% (1.8%)	無解答率: 6.9% (8.3%)

## 令和3年度児童生徒・学校質問紙調査の回答状況より

**児童生徒質問紙62**: 5年生まで[1, 2年生のとき]に受けた英語の授業では、英語で[話したり書いたりして、]自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか。

**学校質問紙61**: 調査対象学年の児童[生徒]に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身[話したり書いたりして、生徒自身が互い]の考えや気持ちを伝え合う(対話的な)活動に取り組みましたか。

「当てはまる」と回答した児童生徒 ・ 「よく行った」と回答した学校の割合 ※**自校の結果を記入しましょう。**

	小・全国	小・岐阜県	中・全国	中・岐阜県	自校
児童生徒(A)	39.2%	37.2%	30.5%	34.1%	%
学校(B)	45.4%	49.5%	45.0%	58.9%	回答
差(A-B)	-6.2%	-12.3%	-14.5%	-24.8%	

教員は指導したつもりでも、子どもたちは...

相手(話し手・書き手)の意図を理解し、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図りましょう。

### 課題を解決するための学習過程(例)

「聞いて(読んで)把握した内容について、適切に応じることができる力」を育成するための学習過程

1. コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、学習の見通しをもつ。
2. 英語を聞き(読み)、応答すべきことを捉える。
3. 考えや情報などを整理し、表現する。
4. 考えや情報などを再整理し、表現を改善する。
5. 学んだことを言語活動で再び活用し、学習を振り返る。



具体的な指導事例(指導計画、授業動画)を見ることができます

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料 **解説動画**→  
 令和3年4月 国立教育政策研究所教育課程研究センター  
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidouusiryuu/eigo/r02.html>



### Listening / Reading → Speaking / Writing

#### 指導改善のポイント

- ・ 児童生徒が挑戦したいと思うコミュニケーションの目的や場面、状況などを設定します。
- ・ 「聞いた/読んだことを基にして話す/書く」といった複数の領域を統合した言語活動を繰り返しながら、表現内容の適切さや英語使用の正確さを高めます。
- ・ 「把握した内容について、適切に応じることができる力」が身に付いたか確認するため、学んだことを再度活用する場面を設定します。その際、児童生徒が自身の学びや変容を自覚できるように支援することが大切です。



以下の資料を参考にすると、調査結果の分析や具体的な授業改善の手立てが更に明らかになります。

### ■国関係資料

国立教育政策研究所

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

○令和3年度 全国学力・学習状況調査 解説資料

・小学校、中学校別冊…国語、算数・数学

○令和3年度 全国学力・学習状況調査 報告書

・小学校、中学校別冊…国語、算数・数学

・小学校、中学校合冊…質問紙

○令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】

○令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例

※令和2年度以前の関係資料も掲載されています。

### ■県関係資料

岐阜県総合教育センター

<https://www.gifu-net.ed.jp/ssd/sien/gakusyuzyoukyou/index.html>

○令和3年度指導改善資料「子どもの目線に立つ」第1弾

※令和2年度以前の関係資料も掲載されています。

---

令和3年度 全国学力・学習状況調査 指導改善資料  
「子どもの目線に立つ2021」第2弾

---

令和3年10月8日

発行・編集 岐阜県教育委員会 学校支援課

---